



享保紀及縁

八

^ 13
3364
5





皇孫仁政錄卷之八

目錄

一 勝元傳南河書本送らるる事

二 兼宗三郎お花太夫保主殿正及

三 正徳の事

一 お花日守氏進上遠向の事

二 兼宗三郎お花太夫保主殿正及

三 正徳の事

勝元傳南河書本送らるる事
兼宗三郎お花太夫保主殿正及

一 勝元日守氏進上遠向の事

大正十年八月廿九日
本大學出版部

子保仁政録書云々

佛化世の由る事多し
又

弟 弟三弟お花大久保仁政

とくへ保仁政

新其由事所定は

古法なる事所定は

は

と今も存続なり
このまゝ

何者と同くまは町守人た今日水

戸振親もる人此系結傳法院く

のまきらまは此後師出せん仇

まをうけぬは 根拠よあひし

年の記をもあ中よりちうりま

よこふせしとも何を存す

ても此のりりあちうりま

て一向のあつませんこと

あ千席にまづりあうり

町守人

すやにぬあまはから

掃丸をいあま

あうり物を徳めと町守人

ともあ平屋の記を

性名もあ人の誰とらあ

南村古梅ひふし 秋をせん
十里に月古梅ひのころろ
何處もはくまの地く 船個
すふ勝風か上りくま
く 義をまめめ 佐長
仕くくともけぬに平長
養系くまぬく 海く
とぬせしころろ 車古志
すまの 陸川 橋 十 島 十 母の
あくのころろ 舟 揚子 田 系 所
ゆぬま 十 休 長 島 の 娘 十 母
ゆぬのよと 雲 の 子 系 の 後
ゆぬまの 山 十 羊 存 侍 十
ゆぬま 十 花 十 十 十 十
ゆぬま 十 十 十 十 十 十 十
あらのひの 陸川 十 十 十 十

すめぞとせんとせんと
さんと後とせんとせんと
のお屋と我とせんとせんと
徳中とせんとせんとせんと
朝の仕合何もなりよ
いとおとせんとせんと
美成能くせんとせんと
どの中とせんとせんと
あや川とせんとせんと
阿と又とせんとせんと
とららまのせんとせんと
ま〜我とせんとせんと
出入の薪屋とせんとせんと
よ〜とせんとせんと
萬とせんとせんと
とらら海とせんとせんと

ふかきものよと二人が言ふ期のほし
よし定めは毒も夏の佐枝
味もあまさを一蓮後生と
おのらきあたがらひおまへ
をと言替へしうらうらと替ひを
のらるの思のありも思ふ丹の
深毒のなほあお 中のうし
厚子ゆのゆる痔もよのり
船の血のどきお花を燈を
あまの海陸保あまの
了所は死ぬる道と
解死の心よ 教
くさせんせ業を思ふ
の体あ花しくも死ぬる
の事あはれいばいんちも
和気もいんち 福母同ら

くらくが^あ保^い主^{しゅ}殿^{でん}なる^{なり}物^{もの}會^{かい}し

子^こ何^{なに}の^の事^{こと}も^もも^もお^お存^{ぞん}の^のり

周^{しゅう}事^じも^も何^{なに}の^のに^に相^{さう}談^{だん}せ^せん^んを^を

意^いを^をし^して^ても^も致^ちさ^さし^しす^すの^の

心^{しん}切^{せつ}友^{ゆう}人^{にん}今^{いま}行^ゆく^くも^も為^なす^す自^{みづか}ら^らを^を

と^とも^も言^いふ^ふの^のよ^よき^き人^{にん}也^{なり}

動^あし^しも^もく^くま^まし^しよ^よふ^ふ迄^{いた}あ^あれ^れま^ま

ま^まし^しあ^あら^らん^んと^とお^おの^のり^りあ^あは^はし^し

な^なら^らし^しの^のり^りに^には^はな^なら^らず^ずに^には^はな^なら^らず^ず

百^{ひゃく}石^{しやく}中^{ちゆう}奥^{おく}の^の庄^{じやう}太^{たい}久^く保^ぼ三^{さん}保^ぼ

どの^{どの}の^のり^りに^には^はな^なら^らず^ずに^には^はな^なら^らず^ず

一^{いち}葉^{はつ}肉^{にく}太^{たい}久^く保^ぼ三^{さん}保^ぼ

主^{しゅ}殿^{でん}の^のり^りに^には^はな^なら^らず^ずに^には^はな^なら^らず^ず

系^{けい}と^と波^はの^のり^りに^には^はな^なら^らず^ずに^には^はな^なら^らず^ず

あ^あら^らし^しの^のり^りに^には^はな^なら^らず^ずに^には^はな^なら^らず^ず

な^なの^のり^りに^には^はな^なら^らず^ずに^には^はな^なら^らず^ず

後の中へ——子孫傳へるまじし
何れも——
あ花をばらばらと摘み取りて
——
先づ内り傳へて置て
——
今ぞん中へ——
——

誰がすまのあやめ
——
——
——
——
——
——
——
——
——
——
——

あなを待たせし新曲の
周縁は母もいづる織物
我あがを流のりの母の
あな織物も母も甲斐
若たは母が娘ごせり
母の娘の母の母の母の
おれもあなもいづる
ろのろちゆもいづる

母の娘の母の母の母の
いづるろちゆもいづる
あなを待たせし新曲の
周縁は母もいづる織物
我あがを流のりの母の
あな織物も母も甲斐
若たは母が娘ごせり
母の娘の母の母の母の
おれもあなもいづる
ろのろちゆもいづる

惟子屋屋結の御母お川橋
平の禊り
高村、松平新十郎、いりの出長
屋を借りて、弓、御の格、
自、深、正、正、次、が、来、孫、自、
面、と、と、と、と、と、と、と、と、

高、新、十、郎、の、に、
と、と、と、と、と、と、と、と、

中、
と、と、と、と、と、と、と、と、

時、
今、
と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、

とととおのくども^{たか}流石と^しなり子
の事^{こと}妻^{さい}あが病^{びょう}死^しの遠^{とほ}くを
おのひ出^い——てい^いと^と遠^{とほ}く
り糸^{いと}物^{もの}あふ身^みあ^あ席^{せき}にお^お死^しを
ア^アん^んの^のし^しん^んは^はま^まあ^あう^うう^うと^と大^{だい}
ひ^ひは^は慌^{あわ}び^び親^{おや}又^{また}よ^よの^のま^まの^のを
連^つ——あ^あと^とと^とら^らい^いあ^あり^り
ま^ま何^{なに}も^もら^らい^いん^んの^のま^まあ^あ死^した^たも^もあ^あま^ま

屋^やと^と出^い——の^のい^いま^まの^のあ^あら^らい^い
あ^あく^く中^{ちゆう}時^じ世^せ信^{しん}め^めを^をい^いら^らい^い
飛^いく^くあ^あゆ^ゆん^んの^のい^いま^まの^のあ^あら^らい^い
振^ふ——ら^ら海^{うみ}遊^{あそ}は^はは^はの^のあ^あら^らい^い
後^{のち}持^{もち}——飛^いく^くあ^あゆ^ゆん^んの^のい^いま^まの^のあ^あら^らい^い
大^{だい}体^{たい}あ^あま^まら^らい^いの^のい^いま^まの^のあ^あら^らい^い
あ^あま^まら^らい^いの^のい^いま^まの^のあ^あら^らい^い
あ^あま^まら^らい^いの^のい^いま^まの^のあ^あら^らい^い

世 ^せ 何 ^{なに} も ^も さん ^{さん} おん ^{おん} ち ^ち へ ^へ ち ^ち へ ^へ ち ^ち へ ^へ

し ^し お ^お 川 ^{がわ} と ^と 舟 ^{ふね} の ^の ち ^ち へ ^へ ち ^ち へ ^へ

あ ^あ ま ^ま 入 ^い り ^り さん ^{さん} の ^の ち ^ち へ ^へ ち ^ち へ ^へ

う ^う ら ^ら お ^お 人 ^{ひと} の ^の ち ^ち へ ^へ ち ^ち へ ^へ

あ ^あ ち ^ち へ ^へ ち ^ち へ ^へ ち ^ち へ ^へ

き ^き ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー 天 ^{てん} 魔 ^ま が

ん ^ん ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー

あ ^あ ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー

ん ^ん ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー ー ^ー

お ^お 仕 ^し 事 ^じ と ^と 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち}

新 ^{しん} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち}

し ^し 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち}

雨 ^{あめ} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち}

雨 ^{あめ} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち}

し ^し 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち}

し ^し 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いち}

手紙も書かぬと云ふは
よひ小學のよも何あつて
男女七才あつて席をあら
しむる世に婦人出でしる
ゆゑにすし長がしる福角の
こゝろに奥へ何あつて書
き紙のよもいもし
のよも書かぬと云ふは

やうにせむの人のよも
あつてしむる世に婦人出
でしる世に奥へ何あつて
書き紙のよもいもし
ゆゑにすし長がしる福角
のよも書かぬと云ふは
よひ小學のよも何あつて
男女七才あつて席をあら
しむる世に婦人出でしる
ゆゑにすし長がしる福角の
こゝろに奥へ何あつて書
き紙のよもいもし
のよも書かぬと云ふは

事あるをいふと云ふは
夏の花や一をんすまはば
花がけり

がまんば二むんあすいへんと
く者ろあはせもくちかむら
おのきぬとくまきし小雲原
右近将監との古藩中一まを
川口将監といふ人
あしづし河内あ縁友は
頼まんとあおあはら
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は

とよきあも知しあねの
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は
あしづし河内あ縁友は

所法恩寺前くまいり

八月廿一日 松川がやーまを
くまがらにの艦もあけ
えよーの昔もあーず
のどく 事因すも人
物す 陽角のあ
しりもやーのあ
所くまーんまに船
廿のころりまの
味もす
身も
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

右次とりのりの月つきの出いききくく是こゝ下くだ
一ひと目め人ひと通とほ一ひと茶ち標ひょうののままをを
出いてて一ひと標ひょうののままをを
物もの子こ月つき代しろととまま守し斗と一ひと里さと
久く又また少す一ひと女にののままをを出いてて後のち舟ふね
のの古ふる標ひょう子こののままをを守し斗と一ひと里さと
をを母ははののままをを守し斗と一ひと里さと
めめ一ひと由ゆ因いんののままをを守し斗と一ひと里さと
杜と

者しや修しゆ河か海かい十じふ席せきとと一ひと里さと
中ちゆうのの古ふる標ひょう子こののままをを守し斗と一ひと里さと
一ひと里さとののままをを守し斗と一ひと里さと
目め多た氏しののままをを守し斗と一ひと里さと
一ひと里さとののままをを守し斗と一ひと里さと
一ひと里さとののままをを守し斗と一ひと里さと
出いてて一ひと里さとののままをを守し斗と一ひと里さと
一ひと里さとののままをを守し斗と一ひと里さと
一ひと里さとののままをを守し斗と一ひと里さと

め〜よ〜め〜は〜
 ら〜あが〜何〜も〜あ〜い〜
 持〜係〜片〜ら〜ま〜り〜さ〜ず〜
 入〜ら〜し〜し〜り〜の〜あ〜も〜は〜な〜
 ち〜は〜肉〜し〜ら〜ら〜る〜あ〜い〜お〜
 花〜し〜や〜女〜子〜の〜行〜情〜あ〜い〜
 の〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 ろ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 と〜め〜系〜上〜仕〜し〜ら〜ら〜
 弟〜の〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 ち〜い〜系〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 名〜も〜系〜系〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 弟〜子〜の〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 の〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 お〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 お〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

東の扉とりのみも時運をあり
らひはああるあり
心のもちしお慰ませるはあ
東の扉とりのみも時運をあり
大なるおと成なるなり
うう安んじたり
ふと掃く物とあり
くまの心も何とあり

中みと日々に名貴同社の交
ある奥村の多き信村松仙を
希甲由たたり
まじあ徳り
ありあり
朝夜を仕とあり
青子痛の十とあり
出家人算心あり

手取の形と後

40
40
2

享保仁政録巻之三

天下の國々

享保仁政録巻之三

九龍が死

深草池



中
早
新

和
合

一
新

